



水産庁

社団法人 日本水産資源保護協会

印刷 東洋紙業株式会社

きよらかな海に、私たちの限りないやさしさを。

海は汚せない

海を誰よりもよく知っている、

海を生活の場としている私たち。

日々の糧を手に入れる海の恩恵をうけるためにも、

海は汚せない。きよらかな海を守りぬきたい。

さらに、きよらかな海にするために。

いま、さかんに論議されている海の問題。その重要性にまっ先に気づいたのは私たちの仲間でした。私たちの運動は日本中に広まって、国会や政府を動かし、現在の公害関係法令を成立させたのです。このことを、私たち漁業に従事するものみんなが忘れず、さらに、きよらかな海にするために、海に対する限りないやさしさをもちつづけることが大切です。

海は、ゴミ捨て場ではありません。

漁網に限らず、空になったビンやカン、かけたプラスチック容器、破れたビニール袋、ひもやバンド……不用意に捨てられたものは、海を汚し、潮流や海底の地形などの関係で良い漁場が集まることが多く、せっかくの漁場を荒廃させるもとになっています。とくに、沿岸漁場では観光客や釣人が捨てるものも相当多く、このため漁業者は漁を休んで、底曳網で漁場の清掃をしているほどです。海にゴミを捨てるのは、もうやめましょう。

汚名はただちに返上しましょう。

最近、外国からベーリング海やオホーツク海の沿岸に、ビン類やプラスチック容器、包装用ポリプロピレンバンド、漁網などが流れついて海岸を汚しているとか、捨てた網や包装用品がオットセイにからまって奇形にしているという苦情が、ひんぱんに届いています。たしかに、日本の漁船が捨てたという証拠は何もありませんが、日本製のものも多く含まれているという事実から、私たちの仲間が捨てた可能性も否定できないのです。

きよらかな海に。私たちの手で。

海に住むものへの限りないやさしさ、こまやかな愛情でしか、海をいつまでもきよらかに守りぬく手はありません。私たちの先輩たちが何年も何年もかかって守りつづけた海。さらに、きよらかな海にするためには、私たち一人一人が自覚しあい、こころがけることしかないようです。海を大切に。私たちが行くところ、世界の海も日本の海と考えると。

